屋　島　寺　跡

1．所在地　　高松市屋島東町屋島山上

2．調査主体　　高松市教育委員会

3．調査期間　　平成２年４月５日～５月31日

4．調査面積　　約300㎡

5．調査担当者　高松市教育委員会　川畑　聡

6．調査の原因　宝物館改築

7．調査結果の概要

第１図　遺跡の位置

本調査区は屋島寺本堂西側にあたる。屋島山上には『日本書紀』に記述がある屋島城や，屋島寺本堂が鎌倉末期の建造であることから，それらの関連遺構が存在することが予想された。そのため平成２年２月に試掘調査を実施したところ，遺構・遺物の存在が明らかになり発掘調査を行うことになった。

調査区北側と南側とでは，土層・遺構の状況が大きく異なる。まず北側では弥生時代中期後半の包含層，７世紀前半の不明遺構，中世土器包含層，近世の溝・土坑等を検出した。包含層出土の弥生土器は摩滅著しく，２次堆積したものと考えられる。また近世前半の溝状遺構は本堂前面の軒先の延長上にあり，雨落ち溝と考えられる。

さらに南側では近世前半の大規模な整地の痕跡と認められる整地層と多量の集石を検出した。集石からは12世紀後半の蓮華文軒丸瓦，10～11世紀の唐草文軒平瓦，17世紀後半の肥前系京焼風陶器碗が出土した。他には宗教儀式との関連の可能性のある近世の土坑や，近世後半の埋甕３つを検出した。埋甕の一つからは寛永通宝が２枚出土している。

第２図　集石検出状況

第３図　埋甕検出状況

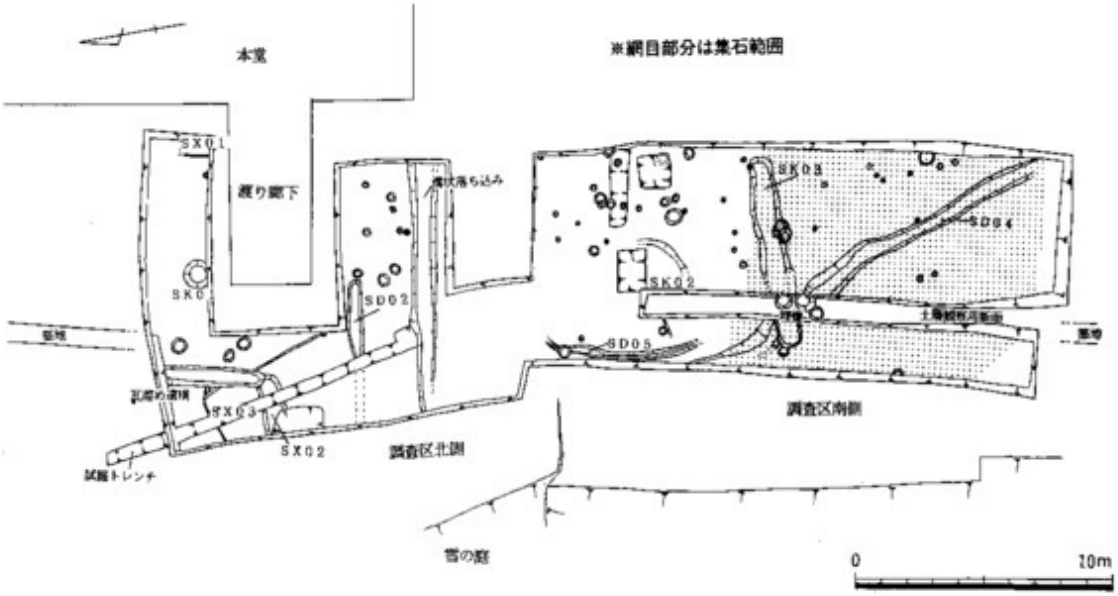
第４図　集石間出土遺物

８．まとめ

今回の調査では直接，屋島城関連の遺構等は確認できなかった。７世紀前半に比定できる遺構が存在するが，屋島築城が天智６年（667）であり時期差が存在する。一方，屋島寺の創建時期については，出土の唐草文軒平瓦，本尊の木造千手観音坐像から10世紀にまでさかのぼれる可能性は存在するものの，当時期の土器等の遺物は皆無である。とりあえず蓮華文軒丸瓦が12世紀後半であり，時期の前後する土器が出土していることから，12世紀までにさかのぼれるであろう。梵鐘の貞応２年（1223）銘もこれを裏付けるものと考えられる。

江戸時代になると屋島寺の活動は活発になるようである。特に調査区南側で確認した17世紀後半と推定できる集石等の整地層については，文献資料で見られる17世紀の屋島寺復興の記述と一致する可能性が非常に高い。

また調査区北側で出土した弥生土器は，弥生時代中期後半の高地性集落が屋島南嶺に存在したことを示唆するものであることを付け加えておきたい。



第５図　遺構配置図

4．㈶香川県埋蔵文化財調査センター発掘調査現況

(1) 四国横断自動車道建設に伴う高松～善通寺発掘調査概況

1．概　況

四国横断自動車道（高松～善通寺）の建設に伴う埋蔵文化財発掘調査事業も3年目を迎えた。今年度も，高松市から善通寺市にかけて発掘調査を実施したが，昨年度で丸亀市内の調査がほぼ終了し，今年度は坂出インターチェンジ以南の坂出市川津地区の調査が加わった。今年度の調査面積は，131,980㎡となり，次年度に若干の調査を残すこととなった。各遺跡の調査概要は次の通りである。

龍川五条遺跡は，昨年度の調査で弥生時代前期の墓域と環濠に囲まれた集落域などを検出した。今年度は，自然河川と条里坪界線と一致する古代の溝等を検出した。南部調査区では前池の現堤防の下部で，昨年検出した環濠の続きを検出した。

龍川四条遺跡では，昨年度未買収地として残っていたB地区の一部を調査し，昨年度同様古代から中世にかけての集落遺構と土壙墓を検出した。

川津中塚遺跡は，下川津遺跡に南接する。北部のⅠ区では，下川津遺跡の南端の調査区で確認した7世紀代の建物群と弥生時代後期後半代から古墳時代後期にかけての用水路と考えられる大規模な溝，中世の建物群を検出した。南部のⅡ区では弥生時代後期後半の竪穴住居とⅠ区で検出した続きと考えられる弥生時代後期から古墳時代後期にかけての溝，平安時代から鎌倉時代にかけての掘立柱建物群を検出した。

川津下樋遺跡は，中塚遺跡の南にほぼ隣接する。弥生時代前期から中期前半にかけてと考えられる水田跡と隣接する自然河川内から同時期の井堰を検出した。

川津二代取遺跡は，下樋遺跡と大束川に挟まれる。自然河川と多条の溝を検出した。この中で弥生時代後期の溝は北上し，下川津遺跡で検出した同時期の基幹水路に概ね連なるものと考えられる。また本遺跡では鎌倉時代の集落跡を検出している。

川津一ノ又遺跡は，大束川の南に位置し，飯野山北麓から大束川以南の弥生時代から中世にかけての代表的な集落遺跡で，大束川下流域の下川津遺跡に匹敵する規模の遺跡である。今回の調査対象地は東西及び南を自然河川で限られ，地形的にまとまりを有する集落のほぼ全面調査となった。弥生時代後期後半から古墳時代前期にかけての集落跡とともに，大束川の下流域では初めて，弥生時代中期の竪穴住居群を検出した。古墳時代後期集落においては，竪穴住居の形態等で下川津遺跡とは様相が異なり注目される。南部で検出した土手状遺構とそれに付帯する木樋も古代の水利や土地開発を考える上で重要な資料となるものである。

川津東山田遺跡Ⅰ区は，飯野山北麓，一ノ又遺跡と県道を挟み南に隣接する。弥生時代後期の竪穴住居群を検出した。竪穴住居は円形のものが多い。東のⅡ区では，古墳時代後期の竪穴住居

を検出した。

川津川西遺跡は，飯野山の北東に位置し，古墳時代後期の竪穴住居と古代から中世にかけての集落跡および奈良時代から鎌倉時代にかけての大規模な溝を検出した。この溝は一ノ又遺跡の様相とも合わせ，古代の水利関係を明らかにする遺構として注目される。

府中地区概ね丘陵部で，時期不明の土壙等を数基確認したのみで，良好な遺構の残存は認められなかった。

国分寺楠井遺跡は昨年度調査を実施した六ツ目古墳の西に位置する。横穴式石室を持つ円墳1基と室町時代の土師質と瓦質の土器を生産した窯跡を検出した。

中間西井坪遺跡の今年度調査区は昨年度調査地点の西に位置する。ＡＴ火山灰の上位から舟底形石器と小型のナイフを主体とする良好なブロックを検出した。古墳時代の遺構は，いずれも前期のもので，小形の前方後円墳と円墳の基底部，埴輪・陶棺などを焼製した野焼き土壙，陶棺を収納した大形の竪穴住居などを検出した。

２．遺跡別発掘調査結果の概要

遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	遺構	遺物
龍川五条遺跡	善通寺市原田町	10,200㎡	平成２年４月９日～２年12月５日	弥生時代環濠，古代溝，中世建物，近世井戸，自然河川	弥生時代土器・石器・木製品，須恵器・土師器
龍川四条遺跡	善通寺市木徳町	1,700㎡	平成２年５月28日～２年10月24日	中世建物・溝・土壙墓	中世鏡・磁器・瓦器・土師器
川津中塚遺跡	坂出市川津町	15,290㎡	平成２年５月10日～３年２月28日	弥生時代竪穴住居・溝・土壙・古代～中世建物・溝	弥生時代土器，耳環，須恵器・土師器
川津下樋遺跡	坂出市川津町	9,650㎡	平成２年５月10日～３年１月31日	弥生時代水田井堰・溝・自然河川	縄文土器・石器，弥生土器・石器，木製品
川津二代取遺跡	坂出市川津町	10,400㎡	平成２年５月10日～３年３月８日	弥生時代溝・自然河川，中世建物・溝	弥生土器・石器，土師器
川津一ノ又遺跡	坂出市川津町	35,160㎡	平成２年４月12日～３年３月28日	弥生時代竪穴住居・建物，古墳時代竪穴住居，古代～中世建物	弥生土器・石器，土師器，須恵器，木製品
川津東山田遺跡	坂出市川津町	28,100㎡	平成２年８月２日～３年３月20日	弥生時代竪穴住居，古墳時代竪穴住居，古代～中世建物	弥生時代土器，須恵器・土師器
川津川西遺跡	坂出市川津町	5,400㎡	平成２年５月10日～３年１月17日	古墳時代竪穴住居・溝，古代～中世建物・溝，自然河川	縄文時代土器，須恵器・土師器
府中地区	坂出市府中町	3,000㎡	平成２年９月25日～２年12月19日	土壙	
国分寺楠井遺跡	綾歌郡国分寺町福家	4,400㎡	平成２年４月11日～２年10月９日	古墳時代横穴式石室，中世窯	須恵器・耳環，土師器・瓦質土器
中間西井坪遺跡	高松市中間町	8,680㎡	平成２年５月10日～３年３月25日	旧石器時代ブロック，古墳時代埴輪焼成土壙・竪穴住居・古墳	ナイフ・舟底形石器，陶棺・埴輪・土師器
計		131,980㎡			

(2) 国道バイパス建設に伴う発掘調査概況

1．概　況

高松東道路建設に伴う発掘調査は3年目を迎えた。今年度の発掘調査は，香川県教育委員会との間に平成2年4月1日付および，平成2年10月1日付でそれぞれ締結した「埋蔵文化財調査委託契約書」および，「埋蔵文化財調査委託契約書の一部を変更する契約書」にもとづき，太田下・須川遺跡，前田東・中村遺跡および鴨部・川田遺跡の3遺跡で財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが実施した。

太田下・須川遺跡の調査は，昨年度に引き続き実施した。調査は西から東にむかって，A～Iの9調査区にわけて実施しているが，今年度はI地区の西端部で830m²の調査をおこなった。昨年度の調査で，当該地に隣接する調査区から弥生時代後期ごろのものと考えられる自然河川を検出し，鋤等の木器が多量の土器と共に出土しているが，同様に土器・木器を包含する自然河川の連続部分を検出した。幅2.5～4.0m，深さ1m程度の規模をはかる。この自然河川跡の上面は全域に黒色粘質土がおおい，弥生時代後期の土器が包含されていた。河川の埋まったあと，そう遠くない時期には周辺一帯が湿地であったことがうかがえる。それ以外の遺構は確認できなかった。昨年度の調査結果と考え合わせると，弥生時代の生活域の縁辺部を確認したと考えられる。

高松市と三木町の市町境に近い高松市前田東町の前田東・中村遺跡で実施している調査は，昭和63年度・平成元年度に続いておこなった。西から東に向かってA～G地区の7調査区に分けて実施しているが，今年度は調査地の西部にあたるA～C調査区で2,485m²の調査を実施し，弥生時代中期から鎌倉時代にいたる遺構・遺物を検出した。弥生時代の遺構としては，A地区で方形周溝墓跡を検出した。深さ約0.3m，幅約1m14×17mの規模で周溝が遺存したが，上部構造は全て削平されており確認できなかった。周溝内から弥生時代中期末の高杯等が出土している。奈良時代の遺構としてはA地区で4棟の掘立柱建物遺構を確認した。そのうちの1棟は2間×6間(5.4m×15.0m)の大規模にものである。各々の柱穴は一辺約0.8m程度の規模を持つ。この建物遺構を中心として，建物主軸をそろえて東側に2棟，建物主軸と直交する位置に1棟の建物遺構が検出できた。これらは，出土した遺物やその位置関係から判断して，ほぼ同時期の遺構群と考えられ，この地域における古代の建物配置の1例となろう。その他，奈良時代から平安時代にかけての土器・瓦を多量に出土する溝状遺構を検出している。同遺構からは，墨書土器や緑釉土器が伴出する。

当遺跡は，低丘陵の端部に位置している。弥生時代から古代にかけての安定した生活域であったと考えられる。

大川郡志度町鴨部で鴨部・川田遺跡の調査を新たに実施した。北流下してきた鴨部川が，川田地区で山に囲まれた平地に流れ込む。その最奥部に当遺跡は位置する。調査対象面積12,000m²をA・Bの2地区に分けて，今年度はA地区の全域とB地区の一部，計5,000m²の調査をおこなっ

た。

検出した遺構・遺物は弥生時代前期末から中期初頭にかけてのものと平安時代後期を中心とする時期のものである。弥生時代の遺構は，現地表下約1.5mで竪穴住居跡・溝状遺構・土坑・ピット等を検出した。A・B両地区で竪穴住居跡を検出したが，これらは円形および隅丸方形を呈する比較的大規模なものであり，12棟以上を数える。B地区で幅2.5～3.5m，約深さ1mの規模で弧状を呈しながら穿かれた溝状遺構を検出した。弥生時代前期末から中期初頭にかけての多量の土器とともに，鍬・杵・石斧の柄および建築部材等の木製品が出土している。平安時代の遺構は，現地表下0.9m程度の位置から検出した自然河川である。土師器等とともに斎串が出土している。

今回実施した調査は，当該地域で最初におこなった弥生時代前期を中心とした時期の遺跡の大規模な調査である。当遺跡は，沖積地の極めて深い部分に立地しており，遺構面の海抜は約7.3mであった。遺跡の在り方などを含めて，今後調査の方法を再検討し，次年度の調査にあたりたい。

2．遺跡別発掘調査結果の概要

遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	遺構	遺物
太田下・須川遺跡	高松市太田下町	830m²	平成2年4月1日 ～4月30日	自然河川	土器 弥生土器 木器 (不明木器)
前田東・中村遺跡	高松市前田東町	2,485m²	平成2年5月1日 ～7月31日	掘立柱建物跡 杭列 溝状遺構 土坑 ピット 方形周溝墓跡 土壙墓 井戸 自然河川	土器 弥生土器 土師器 須恵器 陶磁器 瓦類 軒丸瓦 平瓦 石器 石斧 木器 曲物 その他 銭貨 不明鉄器
鴨部・川田遺跡	志度町鴨部	5,000m²	平成2年9月20日 ～3年2月28日	竪穴住居跡 溝状遺構 土坑 ピット 自然河川	土器 弥生土器 土師器 須恵器 石器 石鏃 石庖丁 石錐 石斧 石核 剝片 木器 鍬 杵 柄（石斧） 建築部材 (不明木器) 木製品 斎串 その他 編み物

(3) 県事業に伴う発掘調査

1．概　況

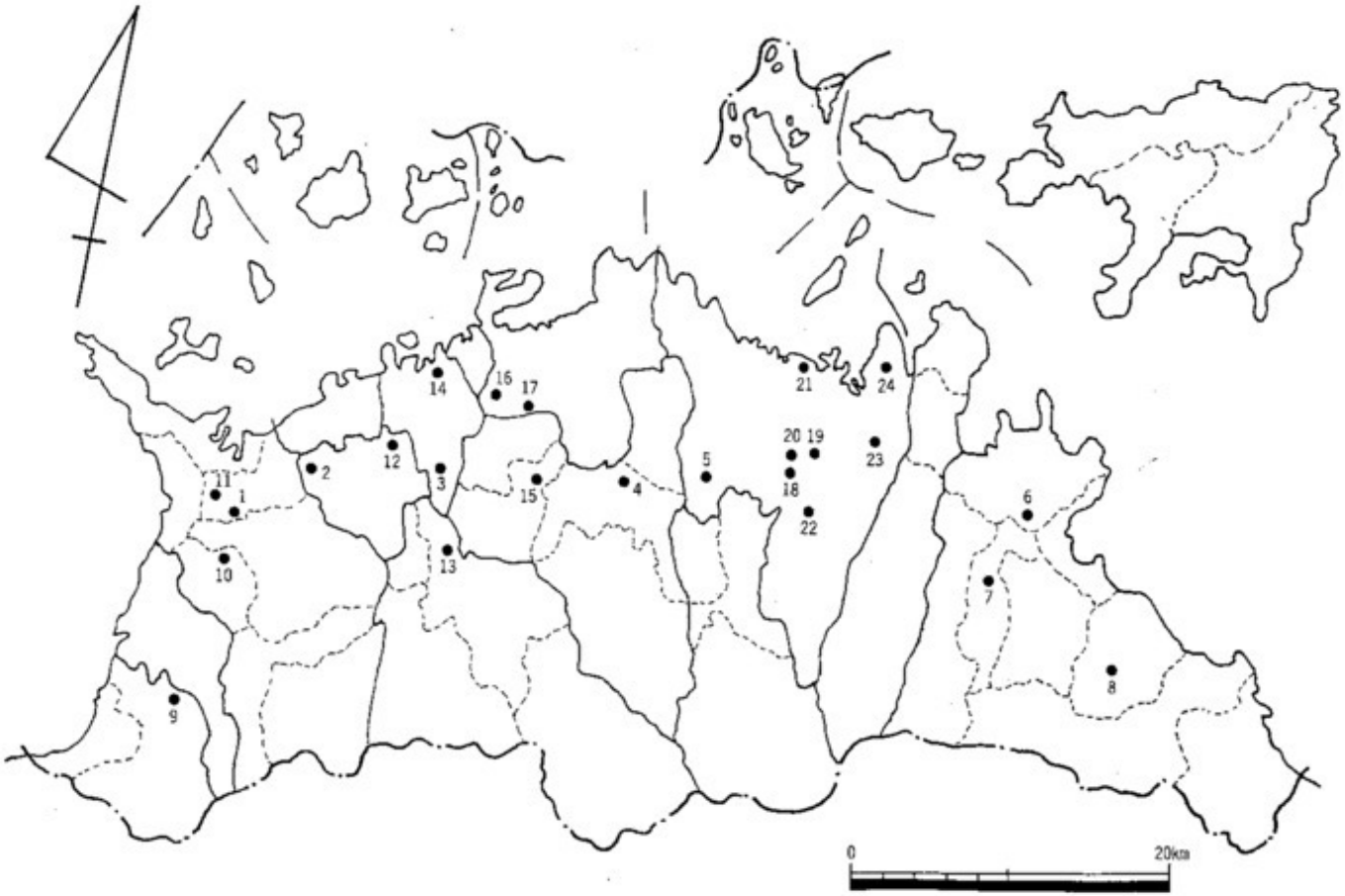
県事業に伴う発掘調査は２事業であった。空港跡地整備開発事業に伴う予備調査と本調査および県道多度津・丸亀線緊急地方道路整備事業に伴う調査事業である。

平成元年12月に高松市林町・上林町の高松空港が廃止され，当該地を香川県土地開発公社が取得したことに伴い空港跡地整備開発事業が計画された。当該地の北方約１キロでは高松東道路の建設に伴い昭和63年度から継続して埋蔵文化財発掘調査を実施してきており，路線予定地内で縄文時代から近世にいたる濃密な埋蔵文化財包蔵地を確認してきた。また，空港跡地の南方を中心とする地域で土器・瓦等の遺物が出土しており，周辺の地形や既出土の遺物から空港跡地内に埋蔵文化財包蔵地が所在することは十分に考えられてきた。香川県教育委員会，当財団，県企画部，県土地開発公社の協議の結果，４月から９月の期間で予備調査を，平成３年１月から３月の期間で本調査を実施することになった。予備調査は，東西に長い空港跡地の32ヘクタール全域を対象に，おおむね滑走路と平行・直交する方眼を50m間隔で設定し，その線にそって幅１～２mのトレンチを設ける方法をとった。その結果，西方では弥生時代前期の多量の土器を包含する自然河川と弥生時代後期の竪穴住居跡等の遺構を，中央部では弥生時代および中世から近代にかけての溝状遺構・ピット等の遺構を，東部および東北部では弥生時代から近世にかけての遺構を検出し，最近の造成工事で削平されたエプロン等の部分を除いて埋蔵文化財包蔵地が遺存していることが明らかになった。また，本調査は跡地の中央東よりの部分で3,000㎡を対象に実施し，弥生時代の溝状遺構，中世前半の溝状遺構・掘立柱建物遺構・ピット，近世以後の溝状遺構等を検出した。限られた部分の調査であったが，予備調査のデータとあわせて考えると当該地の周辺に中世前半を中心として良好な遺構が存在している可能性がある。

県道多度津・丸亀線緊急地方道路整備事業に伴う調査事業は，平成２年12月に香川県教育委員会文化行政課がおこなった試掘調査の結果をふまえて実施した。丸亀市金倉町道下遺跡では弥生時代の土器などが出土し，また周辺には同時代前期の中の池遺跡が所在していることなどから，同時期の遺構・遺物の検出が期待された。調査は平成３年３月までの４ヵ月の期間で，3,500㎡を対象に実施し，弥生時代後期の溝状遺構・土坑・ピット，中世の溝状遺構・ピット，近世の溝状遺構・土坑等を検出した。しかし，後世の削平が著しく遺構面にまで及んでいるため，検出した遺構は少なく，遺存状況も悪い。なお，縄文時代晩期の凸帯文土器片・弥生時代前期の土器細片が若干出土しており，中の池遺跡との関連が考えられる。

2．遺跡別発掘調査結果の概要

遺　跡　名	所　在　地	調査面積	調査期間	遺　　構	遺　　物
空港跡地予備調査	高松市林町 高松市上林町	320,000㎡	平成２年４月１日 ～９月30日	竪穴住居跡 溝状遺構 土坑 ピット 自然河川	土器　木器 弥生土器　下駄 土師器　瓦類 須恵器　軒丸瓦 陶磁器　その他 瓦質土器　銭貨 石器 石斧
空港跡地本調査	高松市林町 高松市上林町	3,000㎡	平成２年12月22日 ～３年３月26日	掘立柱建物跡 溝状遺構 土坑 ピット	土器 弥生土器 土師器 須恵器 陶磁器
道下遺跡	丸亀市金倉町	3,500㎡	平成２年10月１日 ～３年３月31日	溝状遺構 土坑 ピット	土器 縄文土器 弥生土器 土師器 須恵器 石器 石鏃



1．宗吉窯跡
2．月信遺跡
3．宝幢寺跡
4．かめ焼谷１号窯・すべっと４号窯
5．正箱遺跡・薬王寺遺跡
6．鴨部川田遺跡
7．石田高校々庭内遺跡
8．大社遺跡
9．平岡遺跡
10．道音寺遺跡
11．金蔵古墳
12．五条遺跡
13．安造田東３号墳
14．丸亀城跡
15．大原南上古墳
16．西又遺跡
17．讃岐国府跡
18．凹原遺跡
19．浴・松ノ木遺跡
20．弘福寺領田図関係遺跡
21．高松城跡
22．石舟池古墳
23．諏訪神社遺跡
24．屋島寺跡

調査対象遺跡位置図

香川県埋蔵文化財調査年報
平成２年度

平成３年３月31日　発行
編集　香川県教育委員会事務局文化行政課
高松市番町４丁目１番10号
電話（0878）31－1111
発行　香川県教育委員会
印刷　㈲　成　光　社